



popo

2012年
第3号

ポポ

社会福祉法人 蒼生会 広報委員会発行

待望の新施設建設決定！

社会福祉法人蒼生会は、法人の中期経営計画に基づき新たな高齢者福祉施設を建設することとなりました。新施設は、平成25年4～5月頃に完成予定で、地域密着型小規模特別養護老人ホーム（定員29名）、短期入所生活介護施設（シヨートステイ・定員10名）及び地域密着型認知症対応デイサービス（定員12名）の開設を予定しています。相模原市では初めての地域密着型サービスを提供する施設となります。

この新しい施設の名前は「ピノ」と名付けられました。既にご存知の方も多いかと思いますが、古淵駅前の「保育園ピノ」と同じ名前です。「ピノ」という名前は、ブドウの品種であるピノノアールがその由来で、この種は栽培が非常に難しいのですが、とてもおいしい赤ワインが創られることで知られています。

ピノの名前には、じっくり丁寧に人を育み、ケアすることで最上の福祉サービスを地域のみなさまにお届けすることを理想とし、そ

してそのための努力を怠らないようにとの願いが込められています。

地域密着型サービスとは？

地域密着型サービスという言葉はあまり聞き慣れない言葉ではないでしょうか。地域密着というだけあって、何となく地域に親しみのある施設というイメージを持って頂ければ幸いです。

地域密着型サービスとは、高齢者が要介護状態になっても、できるだけ住み慣れた地域で生活を継続できるよう、日常生活圏内でサービスの利用及び提供が完結できるように配慮された介護サービスです。平成18年の介護保険改正によって新設されました。小規模特別養護老人ホームやグループホーム、認知症対応型デイサービスやケアハウス（特定施設）、有料老人ホーム（特定施設）や小規模多機能型居宅介護施設、夜間対応型訪問介護などが地域密着型介護サービスに当てはまります。これらのサービスは、市町村が事業者の指定を行うことにより市町村が主体となつて提供される介護サービスですので、当該施設の住民のみ

が保険給付の対象※となります。要するに地域の方の利用が最優先になるということです。

蒼生会は、かねてより地域福祉の実践には、その地域にふさわしいサイズの施設が必要であると考えていました。地域密着型介護サービスを提供する新施設「ピノ」は、地域のみなさんに必要な新しい介護サービスを提供できることを楽しみにしています。大きすぎず小さすぎず、地域のすべての介護需要に応えられるよう、蒼生会は、これからもさまざまなバリエーションのサービスを増やしてまいりますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

※他市町村の方でも当該市町村が認めればサービスを受けることができます。

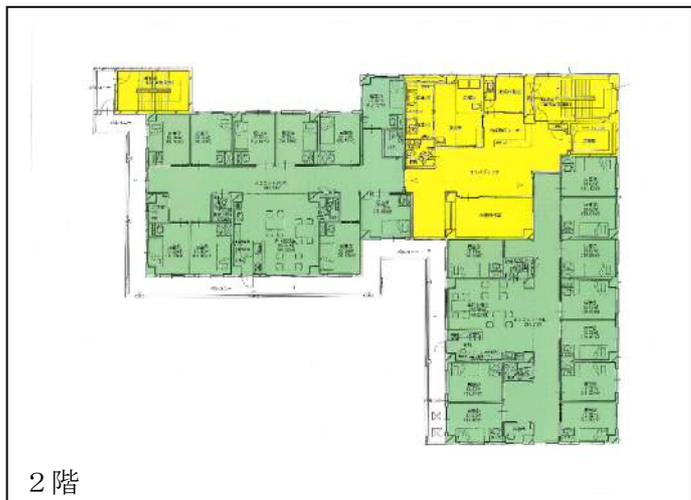


ピノの概要

新しい施設の建物は、3階建てで、1階がデイサービス、2・3階が特別養護老人ホームとシヨートステイになります。図面でもわかるように、1階には、庭園があつて園芸や日光浴を楽しむことができます。日曜日や祭日には地域の皆様とも交流できるような催しを企画していく予定です。また、この庭園は、認知症の利用者が自由に庭を散策しても、元の場所に戻れるように工夫されています。



1階



2階



3階

黄色…共用部分
赤色…1階 デイサービス
緑色…特別養護老人ホーム
ピンク…3階 シヨートステイ

庭園前のウッドデッキには足湯を設備し、デイサービスや特養利用者のリハビリに役立てていただきます。

2階、3階は特別養護老人ホーム及びシヨートステイで、個室ユニットケアでの運営を予定しています。個室ユニットケア方式は、特別養護老人ホームモで採用している四床部屋介護とは異なり、1ユニットが最大でも10人単位のグループで、それぞれ個室に入居していただき個別介護を行うという、最新のユニットケア手法に基づく尊厳のある介護をご提供します。

ピノの入所施設は、定員10人のユニットが3つと9人のユニットが1つという構成になり、その内の1ユニットが短期入所専用となります。詳細については、上の平面図をごらんください。

屋上からは正面に丹沢山塊を遠望し、四季折々の山の景色の移ろいを眺めることができます。また、屋上には、将来的に太陽光発電パネルなどが設置できるよう準備します。

ピノの建設予定地は、鶴野森1丁目488番地です。旧道16号線鶴野森交差点の一角に位置し（小方動物病院の入口のところ）、町田駅や古淵駅あるいは相模大野駅へのアクセスも徒歩でそれぞれ15分から30分以内の圏内にあります。

最寄りの駅は町田駅から神奈中バスで、グリーンハイツ循環「リリエンハイム入口」下車となります。

尚、新施設に接する旧道16号線は、交差点の近辺道路が拡幅予定となっており、平成26年頃には完成し、歩道もできる予定です。歩いて5分圏内のコンビニエンスストアや薬店、スーパーマーケットやスーパー銭湯などへ出掛けるにも、とても安心な環境となる予定です。

社会福祉法人蒼生会がお届けする新たな福祉のかたち、都市型福祉施設「ピノ」にぜひお出で下さい。
地域のみなさまのご利用をお待ちしております。

理事長 大久保 祐次

世代間交流 について

皆さんこんにちは。私は、特別養護

老人ホーム モモ 職員の大類です。今年度の世代間交流委員会の委員長を務めさせていただきました。高齢者施設と児童施設が建てられてから、はや13年、今まで高齢者と児童たちとが交流する場面や機会がありませんでした。しかし数年前から実施している高齢者施設・児童施設とが協力して取り組んだカシオペア祭などをきっかけに、徐々に双方の職員や仕事に対する考え方などを知れる良いきっかけとなり、双方のふれあいも増えました。

世代間交流委員会設立の背景には職員の交流だけでなく、高齢者や児童たちにも各世代相互のコミュニケーション能力が必要であつて、未来への希望を次の代につないでいく為にも、子どもたちが経験豊富な世代と交流し、生きる力を身につけることが大切です。高齢者にとつても、健康で生きがいのある生活を送ることが出来る地域



社会を築く為に、法人で何が出来るかを考え、実践する為に世代間交流委員会を設立しました。

まず世代間交流を行うにあたって、双方の職員がお互いの施設を見学し、お互いの環境や仕事内容、高齢者と児童の違いなど、双方がどんな思いを持って、どんな所に気を付けながら高齢者・園児たちに接しているのかを知ったうえで、実際に交流を図っていくという考えでした。実際には職員数が多かった為、高齢者と園児たちとの交流が始まってからも職員の施設見学は並行しながら、取り組んでいきました。

高齢者と園児との交流内容は、初め



組んでいきました。

はお互いに何らかの作業をする事で交流を図ったかどうか？という意見も出ましたが、初めての交流という事もあつて、簡単な体操であつたり、歌を歌つたり、ボールで交流を図つたりと、お互いが構える事

なく、自然体でふれあえるようにという気持ちを含めて交流を進めてきました。実際に特養・デイサービス・ケアハウスでは、保育園モモと保育園ピノに2回ずつの交流をさせていただきました。交流内容はそれぞれの年齢や介護度などを考慮したうえで、40分程の交流をしていただきました。高齢者は園児の顔を見るなり、たちまち笑顔になったり、普段は物静かな方がご自分から園児たちに話しかけたりと、様々な様子を見る事が出来ました。園児たちも最初は緊張した面持ちで静かでしたが、歌やふれあいを通じてだんだんと慣れ、園児たちが積極的に話をされる場面も見られるようになりました。

今年度、交流回数は高齢者施設・児童施設併せて6回の交流でしたが、皆

さんの笑顔であつたり、他人を思いやる気持ちなど、様々な場面で人との関わりを見る事ができました。来年度はもう少し交流回数を増やし、さらにお互いが気軽に行き来出来るような環境や関係を築き上げていければと思つています。

(大類 雅裕)



保育園モモより 日々の様子



にぎやかな屋上

屋上の防水工事を行い、床面にクッション材が敷かれました。床が柔らかくなり、転んでもへっちゃらです！

0歳児から2歳児の乳児クラスは、屋上も遊び場として使用します。追いかけてっこをしたり、でこぼこのクッション築山に登ったり、屋上が大好きな子ども達です。

夏にはこのクッション築山をプールやたらいに変えて、全クラスで水遊び、プール遊びをします。今年の夏が楽しみです。



コンサートの贈り物

3月まで5歳児クラスにいた子ども達は、この4月から小学校一年生になります。子ども達にやさしい響きを聴いてもらいたいと思い、保育園を卒業する前に、職員演奏によるコンサートを開きました。

木の笛やライヤーという弦楽器で奏でる音に耳を傾け、演奏に合わせて歌い出す子ども達。みんな一つになり、とても心地よい時間となりました。コンサート後には、「よかったよ」、「すてきだったよ」といった声が聞こえてきました。

こうした職員の取り組みが、何かに挑戦しようとする子ども達自身の意欲のきっかけとなることを願っています。



保育園ピノの鏡開き

新年を迎えて間もない1月11日、保育園ピノで初めての鏡開きを行いました。会場となったテラスの中央には大きな臼が置かれ、そこへ蒸したての餅米が運ばれてくると、テラスで遊んでいた子ども達もいつもと違う雰囲気を感じながら、興味深げに近寄っていました。

子ども達が集まる中、保育士が「ピノのお餅つき」の唄を歌い、餅つきが始まります。



♪ピノの
餅つきは

トーントーン

トツテツタ

おっこねて

おっこねて♪

子ども達も一緒になって手遊び唄を歌い、早速餅つきのお手伝いを始めました。鏡開きを通して、子ども達は「ピノのお餅つき」の唄を今まで以上に大好きになり、1歳から年長クラスの子も達まで、今では遊びの中で口ずさむほどお気に入りのお歌です。

ピノは開園2年目で、園内行事などまだまだ手探りの状態ですが、今回保護者の皆様にご参加を募ったところ、本当にたくさんの方が餅つきに来てくださいました。お父さんの姿も多く見られ、「お父さん達、ぜひお手伝いお願いします〜」と呼びかけると、皆さんが快く力を貸してくださいました。子ども達も、普段なかなか見る事のない三角巾姿のお父さんを前に「頑張れ〜」と声援を送ったり、力いっぱい杵を振り

上げるたくましい姿に目を輝かせ、「ピノのお餅つき」を歌い応援しながら楽しんでいました。

つき上がったお餅を丸める時は、保護者の皆さんと、幼児クラスの子ども達も一緒にお手伝いに参加し、あんこ、きな粉、磯辺焼きと、美味しそうなお餅がたくさん出来上がりました。

当日は午後から雨の予報で、空はどんより雲に覆われ、テラスはとても寒かったのですが、子どもも大人も、温かいお餅を手にした顔には満面の笑みがこぼれ、みんなと一緒にお餅を頂きながらお正月らしいひと時を過ごす事ができました。



今回のような保護者参加型の行事を園内で行うのは初めてだったので、私たちの準備や当日の流れなど反省も多くあります。しかし、日頃の園生活ではなかなか交流する時間が持てない皆さんと、行事を通して交流を深め、子どもと職員だけでなく、保護者の皆さんと一緒に行事を楽しめた事がとても良い経験



になりました。来年度以降は、保護者の方々、また地域の皆さんとも一緒に楽しめる行事を増やし、大人達の手を取り合い助け合う中で子ども達が安心して、そして園生活を楽しくみながら成長していける保育園にしていきたいと思えます。

(保育園ピノ 松田 恵里子)

11月7日から12日まで4泊6日でハワイ研修に行ってきました。青い空、青い海、穏やかな時間の流れを感じてきました。ハワイには日系人が80%住んでいるそうです。そのため見学してきた施設の入居者に日本語で話しかけられる場面もありました。介護の中にも文化の違いが生活環境に大きく影響されていると感じられました。アメリカの考えの中に、セレクト【自身で選び・決定する】が生活の基盤にあります。2ヶ所回った施設職員は限りなく利用者の要望に応えられるように努力されておりました。介護保険の趣旨、自己決定をもっと反映出来るよう、利用者に寄り添う介護を目標に頑張りたいと思います。

(藤井 恭子)



海外研修 in hawaii

2011年11月7日~12日



この木なんの木 日立の木



11月にハワイへ海外研修に行かせて頂きました。そこで2ヶ所の施設へ伺いました。1ヶ所目は『15クレイグサイド』という有料老人ホーム、2ヶ所目は『HALE NANI』という『ナーシングホーム』へ行きました。

『15クレイグサイド』は新設されたばかりで、各居室はホテルの一室のようでした。住んでいる方の中には日本語を話せる方も多く、日本語で話し掛けて下さいました。設備も充実しており、自立している方が多いので、皆さんいきいきと生活されているようでした。

『HALE NANI』は、モモと似た雰囲気の特養で、車椅子の方や介助の必要な方が多くいました。施設内はとても開放的で風通しも良く、排泄物などの臭いは殆ど感じられませんでした。また、アクティビティがとても充実しており、その一つは新聞にも取り上げられています。モモでも行えそうなアクティビティもあつたので、今後モモでも活用していきたいと思いました。

(角田 麻由)

ハワイは、あちこちに美しい虹たち、いつも気持ち良いそよ風が頬をなでます。



植物も豊かな雨を含んで、きらきらしています。道行く人々もゆったりとした表情が見られ、誰も急いで歩く人はいません。店では、店員さんが素敵なスマイルをプレゼントしてくれます。この様子は介護施設でも同じように見受けられました。職員も入居されている方も、自分自身のペースでゆったりと、働き、過ごされている感じがしました。

施設自体は、日本と大差ないか、日本の方がいいような気がしましたが、施設内を漂っている空気が、まさにハワイの精神性を象徴しているように思えました。

日本の施設でも、このハワイの精神性を再現できたらいいなあと思います。

(松田 道子)

特別養護老人ホーム ご家族との食事会



平成23年度下半期より『ご家族との食事会』を始めました。対象はその月に誕生日を迎えるご利用者とそのご家族です。事前に申し込みをしていただき昼食の誕生膳

をご家族も一緒に召し上がっていただく会です。(毎月第4日曜日開催)。初めての開催となる11月には、4組6名のご家族が来て下さいました。初めて召し上がっていただく施設の食事に、「思っていた以上に美味しい」「勉強になる」とお声を頂きました。いつも大変早く食べ終えてしまう方も、ご家族と歓談しながらゆっくりと召し上っていただけました。沢山の笑顔があり、開催した私達も笑顔になります。参加したご利用者からは、会が終わってから「楽しかった」「美味しかった」と笑顔で話され、いい思い出になったようです。ご家族と一緒に写真撮影し、お持ち帰りいただきました。

した。食事会が恒例行事となりこの写真が1枚でも多くなること、そしてご家族とご利用者との思い出になっていただければ幸いです。

(佐藤 まどか「管理栄養士」)



デイサービス忘年会



昨年の12月にデイサービスのプログラムで、一大イベントである忘年会を行いました。忘年会+クリスマス会として、いつもとは違う雰囲気の中で行いました。食事はバイキング形式で職員と一緒に召し上がり、利用者のお出し物・カラオケ・ゲーム大会など、利用者にも参加していただいた職員によるモモ劇場と題しまして、『月光仮面』の劇を披露しました。最後には利用者への感謝の気持ちを込めて、折り紙で作ったバラをプレゼントして皆さんたいへん喜んでいただきました。

平成24年度もモモにきてくれる利用者の皆さんが喜んでいただける企画を考えていきますので、楽しみにして下さい下さい。(諸林 賢)



ケアハウス バスハイク



ケアハウスの年間行事に『バスハイク』があります。年に2回、春と秋に催されます。毎回場所選びに奮闘しながらも、素敵な場所を探しては出掛けて行き、ご入居者の親睦を深めています。昨年5月には相模原麻溝公園へ、クレマチスを鑑賞に行きました。天候にも恵まれ、春から初夏にかけての様々な草花を楽しみ、可愛い動物たちともふれあう事ができました。

11月には江戸切子を鑑賞しに町田市立博物館へ行き、日本のカットガラスの美と伝統を堪能しました。いずれも鑑賞後はレストランでお食事をしますが、これも楽しみの一つです。

旅行会社の企画するバスツアーとまではいきませんが、こうした行事はケアハウスでの生活に潤いを与え、アットホームな雰囲気にするのに一役買っています。

(宮村 美津子)



居宅支援事業所 モモです!

今回は成年後見制度についてつぶやきです。
高齢化が進行し、福祉ニーズの増大、多様化に対応するため、社会福祉の大きな改革が進んでいます。

介護保険制度の開始にともない、福祉サービスの利用が、行政による「措置」から「契約」に変わってきました。契約は、自己責任のもとに、自分で選択および決定を行うものではありませんが、認知症高齢者や知的障害者、精神障害者などの判断能力が不十分な方々は、適切な福祉サービスを選択して利用に関する契約を結んだり、また、不動産や預貯金などの財産の管理をしたり、遺産分割の協議をする必要があっても、自分でこれらの判断や手続きをするのが難しい場合があります。また、悪徳商法などで自分に不利益な契約を結んでしまうおそれもあります。

現在の成年後見制度は、認知症高齢者など判断能力が不十分な人々も福祉サービスの利用に際して契約が必要になったことを契機に、平成12年4月に、民法の禁治産・準禁治産制度を改正してつくられた制度です。そして、このような判断能力の不十分な方々に対して、代理権などを付与された後見人が、本人の意思を尊重しつつ本人を保護し、支援をするのです。

つぶやきケアマネでした。

デイサービスモモ利用者作品



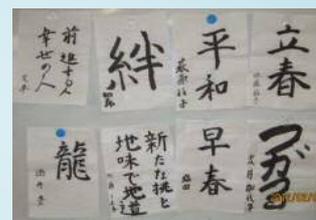
アイディア満載
創作プログラムで作った
小物入れと軍手人形。



個人作品として素敵な作品をモモ
に提供して下さり、展示しております。



手作り“とんとん相撲”
誰が横綱になるか!?



上手い・下手は関係なし。
書道は心です。

社会福祉法人蒼生会

〒252-0301 相模原市南区鶴野森1丁目22番17号

●特別養護老人ホーム モモ TEL 042-767-8030 ●居宅サービスセンター モモ TEL 042-767-8278
●ショートステイ モモ TEL 042-767-8030 ●デイサービスセンター モモ TEL 042-767-8280
●ケアハウス モモ TEL 042-767-8281 FAX 042-767-8032 (共通)

〒252-0301 相模原市南区鶴野森1丁目21番4号

●保育園 モモ TEL 042-767-8470 FAX 042-767-8475

〒252-0344 相模原市南区古淵1丁目8番1号

●保育園 ピノ TEL 042-750-0065 FAX 042-750-0068

2012年4月1日・500部発行 発行責任者：モモ広報部